

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

日本神経治療学会 標準的神経治療: Restless legs 症候群

日本神経治療学会治療指針作成委員会
神経治療、第 29 巻第 1 号、2012 年

■1 抑肝散

疾患:

Restless legs 症候群

引用など:

Shinno H, Oka Y, Otsuki M, et al. Proposed dose equivalence between clonazepam and pramipexole in patients with restless legs syndrome. *Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry* 2010; 34: 522-6.

有効性に関する記載ないしその要約:

Restless legs 症候群の治療（薬物療法と非薬物療法）の今後期待される薬物治療の項に、下記の記載がある。

『漢方薬では、Shinno ら（2010 年）が、高齢の RLS【Restless legs 症候群】の 3 症例に対し、pramipexole 0.375～0.625mg/day または clonazepam 1.0mg/day の内服に、抑肝散 5g/day（夕方、就寝前に 2.5g ずつ内服）の併用が有用であったことを報告している。』